

(別添1)

令和7年度老人保健健康増進等事業

LIFE情報をアセスメント及びケアプラン作成に活用する方法に関する調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

本事業では、介護施設・事業所において定期的に取得されるLIFE情報を、介護支援専門員がどのようにケアマネジメントに活用できるかについて検討を行うことを目的とした。なお、本事業においては、まず施設系サービスにおけるケアマネジメントへのLIFE活用プロセスについて検討委員会での議論を踏まえながら検討し、その上で、有識者・実務者へのヒアリングを通じて居宅系サービスにおけるケアマネジメントへの活用について検討した。

1. 検討委員会の設置・運営

本事業の実施にあたって、本事業の実施内容全体について検討する検討委員会を設置し、検討委員会では調査の実施方針の検討及び調査結果についての議論を合計3回実施した。

2. LIFE関連加算様式及びフィードバックに含まれる項目の整理

LIFE関連加算の様式に含まれる項目に含まれる情報とケアマネジメントに係る様式等（施設系・居宅系）に含まれる項目の関連について整理した。施設系サービスについては、課題分析標準項目、施設サービス計画書標準様式（第1表～6表）、R4システム（新全老健版ケアマネジメント方式）、包括的自立支援プログラム方式について、ケアマネジメントに係る様式とLIFE関連加算の様式に含まれる項目の関連における共通事項を中心に整理をした。居宅系サービスについては、居宅サービス計画書標準様式（第1～5表）、居宅サービス計画ガイドライン方式を対象とした。また、施設系サービスと居宅系サービスにおける違いの整理を、制度面及びLIFEに係る施設・事業所での運用面に着目して行った。

3. 実態把握及びユースケースの収集

2.で整理した内容を踏まえ、LIFE情報の活用場面や情報の連携時期・方法について仮説立てを行った上で、2種類のヒアリング調査を実施した。施設系サービスについては、LIFE情報をケアマネジメントに活用している施設、または活用に興味・関心があるが、現状活用できていない施設を対象にヒアリング調査を実施した。居宅系サービスについては、居宅介護支援事業所に勤務する主任介護支援専門員を対象に、介護支援専門員自身がLIFE関連加算の様式項目の評価及びLIFEへの提出を行うことは想定せず、利用者が利用する事業所からLIFE情報が共有されることを前提にヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査結果について、施設系サービスにおいては、介護支援専門員へのLIFE情報の共有について、多職種でのケア会議において共有されることが多く、共有の手段としてはLIFEの様式情報が入力された介護記録ソフトの閲覧や、施設独自のアセスメントシートがあった。共通のものさしで状態を把握することが可能であること、多様な職種の視点を取り入れられること等がLIFE情報の活用の利点として挙げられた一方、様式数や項目の情報量が多いこと、評価者によるばらつきがあること等が課題として挙げられた。ケアマネジメントへの活用については、事前に各職種がLIFEの様式情報を評価した上で、多職種で解釈し、目標や支援内容を調整する流れが多く、科学的介護推進体制加算を優先的に確認し、必要に応じてその他の加算で深掘りしている場合が多かった。ケアプランを立てる根拠を明確にすることができる等がLIFE情報の活用の利点として挙げられた。

居宅系サービスにおいては、介護支援専門員へのLIFE情報の共有について、フィードバックにより過去からの状態変化を把握でき、ケアプランの見直しや説明資料としての活用が期待された。LIFEの指標を用いることで、共通のものさし・共通言語による状態把握や議論が可能になるとの意見があった。介護支援専門員が把握しにくい体重、口腔、栄養、ADL等について、サービス事業所からの情報共有は有用である一方、評価者間でのばらつきや情報量の多さが課題として挙げられた。

4. ケアマネジメントにおけるLIFE活用の在り方の検討

1～3を踏まえて、ケアマネジメントにおけるLIFE活用の在り方について、施設系サービスにおけるLIFE情報の活用、現状のLIFEにおける制約となり得る事項、居宅系サービスにおけるLIFE情報の活用、更なる検討が必要な事項の4点について検討をした。

施設系サービスにおけるLIFE情報の活用については、ヒアリング結果を踏まえ、施設系サービスにおけるLIFE情報の活用プロセスのモデルケース及び現状のLIFEに係る制度を踏まえた留意事項を検討した。現状のLIFEにおける制約となり得る事項については、制度面とシステムに分けて検討を行った。居宅系サービスにおけるLIFE情報の活用については、現在のLIFEの運用を基本とし、情報共有ツールや紙媒体等を用いて、実績報告やサービス担当者会議の場で、LIFE情報がサービス事業所から居宅介護支援事業所に対して共有が行われる場合を想定して、居宅系サービスにおけるLIFE情報の活用のメリットや課題を整理した。更なる検討が必要な事項については、LIFE情報の定義及び活用方法の周知、LIFE関連加算様式項目に関する検討事項、利用者フィードバックの位置づけと提供項目の整理について検討をした。

本事業の調査結果により、今後介護支援専門員がLIFE情報をケアマネジメントに活用する取組の普及を目指すために、活用のあり方や検討が必要となる事項の基礎資料を得た。